

公共工事の原点とワンデーレスポンス

(～発注者・受注者の関係の再構築～)

平成20年11月27日

国土交通省大臣官房技術調査課

建設システム管理企画室長

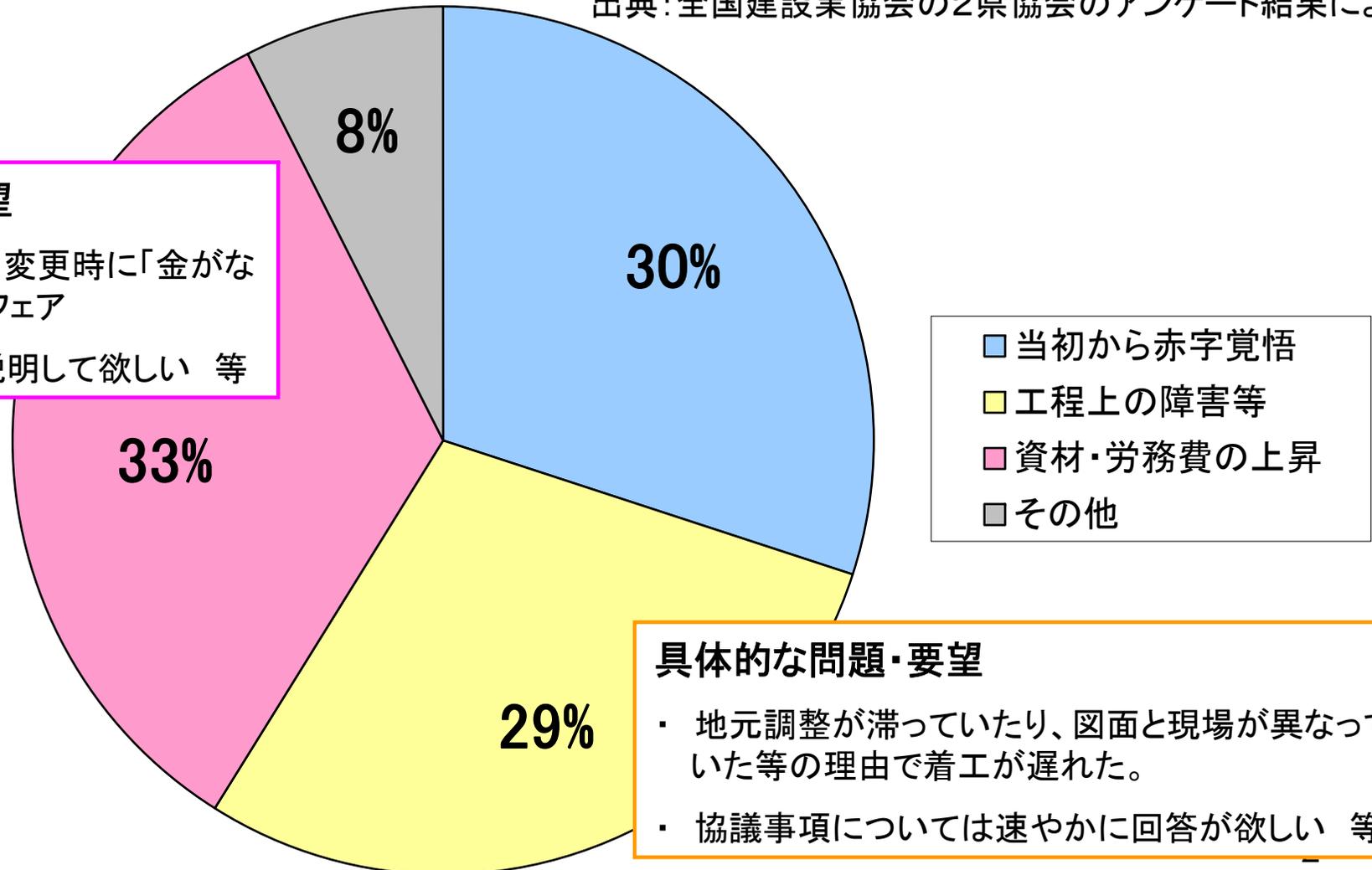
大西 亘

工事を受注したが採算がとれなかった理由について

採算がとれなかった理由は、大きく以下の3つにわけられる。

- ① 入札段階 (当初から赤字覚悟)
- ② 施工段階 (工程上の障害等)
- ③ 精算段階 (資材・労務費等の上昇)

出典: 全国建設業協会の2県協会のアンケート結果による



具体的な問題・要望

- ・ 施工させておいて、変更時に「金がない」というのはアンフェア
- ・ 変更理由を詳しく説明して欲しい 等

具体的な問題・要望

- ・ 地元調整が滞っていたり、図面と現場が異なっていた等の理由で着工が遅れた。
- ・ 協議事項については速やかに回答が欲しい 等

※ 133件の工事に対して調査(複数回答のため、回答総数は250件)

発注・施工段階での諸課題(例)

- 発注者の意思決定遅れ
- 設計図書の不備(施工条件が不明確)
- 設計照査結果への対応(結果としての再設計)
- 関係機関との事前協議・用地問題(予想内外)
- 工事発注時期(そもそも厳しい設定)
- 工事書類・検査書類の作成(過大なもの)



工事の採算性悪化に直結

建設業の採算性向上のためには・・・

① 入口での対策ツール

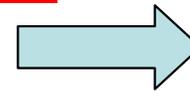
- 調査基準価格
- 実勢価格を反映した積算
- 総合評価方式
- 施工体制確認型・・・



適正価格での
契約

② プロセス～出口までの対策ツール

- ワンデーレスポンス
- 三者協議
- 設計変更審査会 ……



採算性悪化
要因の排除



追加費用の
適正な支払

採算性悪化要因 排除の方向性

【課題】

●発注者意思決定遅れ

●設計図書の不備

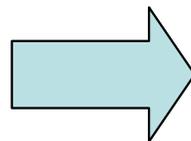
●設計照査結果への対応

●関係機関・用地問題

●工事発注時期

●工事関係書類

解決の方向性



【着工前】

設計品質の向上

条件情報の明確化

【着工後】

設計思想の共有化

意思疎通の円滑化

ルールの明確化

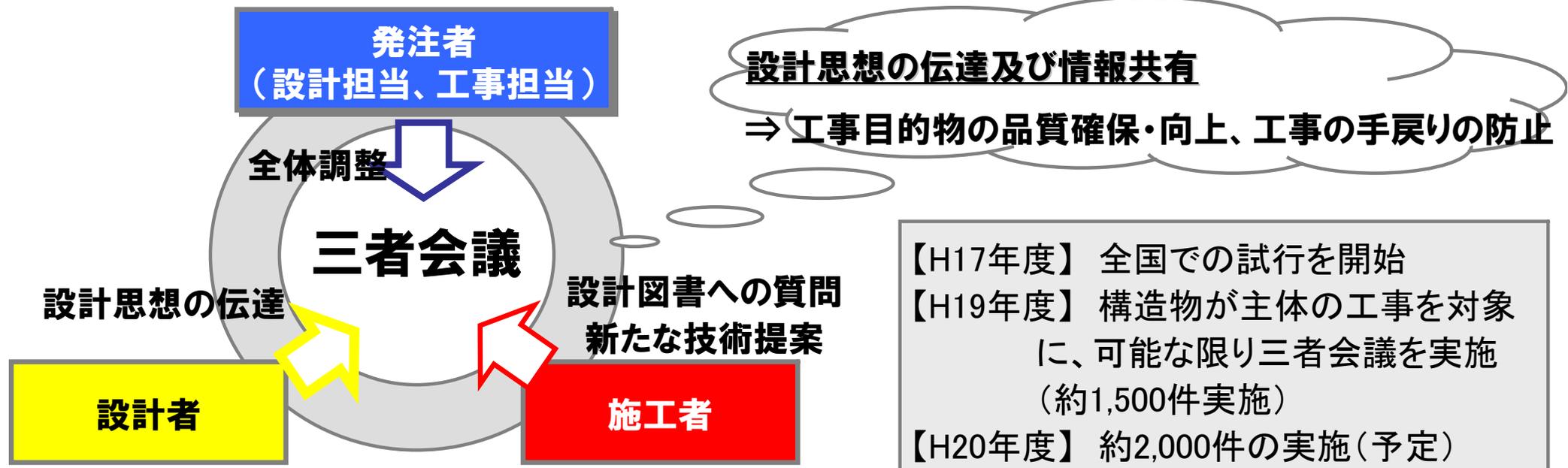
三者会議(設計思想の共有化)

1. 三者会議の目的

◆ 工事目的物の品質確保を目的として、施工段階において、発注者(設計担当・工事担当)、設計者、施工者の三者による『三者会議』を実施し、設計思想の伝達及び情報共有を図る。

2. 三者会議による品質確保・向上の概要

- ◆ 三者会議は、施工者が設計図書を照査した後に、施工計画書の作成前に開催するものとし、発注者(設計担当、工事担当)、設計者(管理技術者等)、施工者(現場代理人等)が出席する。
- ◆ 会議では、発注者(設計担当)・設計者から設計思想や施工上の留意事項等を説明するとともに、施工者から設計図書に対する質問や現場条件に適した技術提案などを受ける。
- ◆ 原則として構造物が主体の工事を対象とする。



■ 評価

- 施工者側に、円滑施工のための情報が増加

→ 結果的に、品質の向上、事故の減少、利益率の向上に

- 設計者側にもメリット

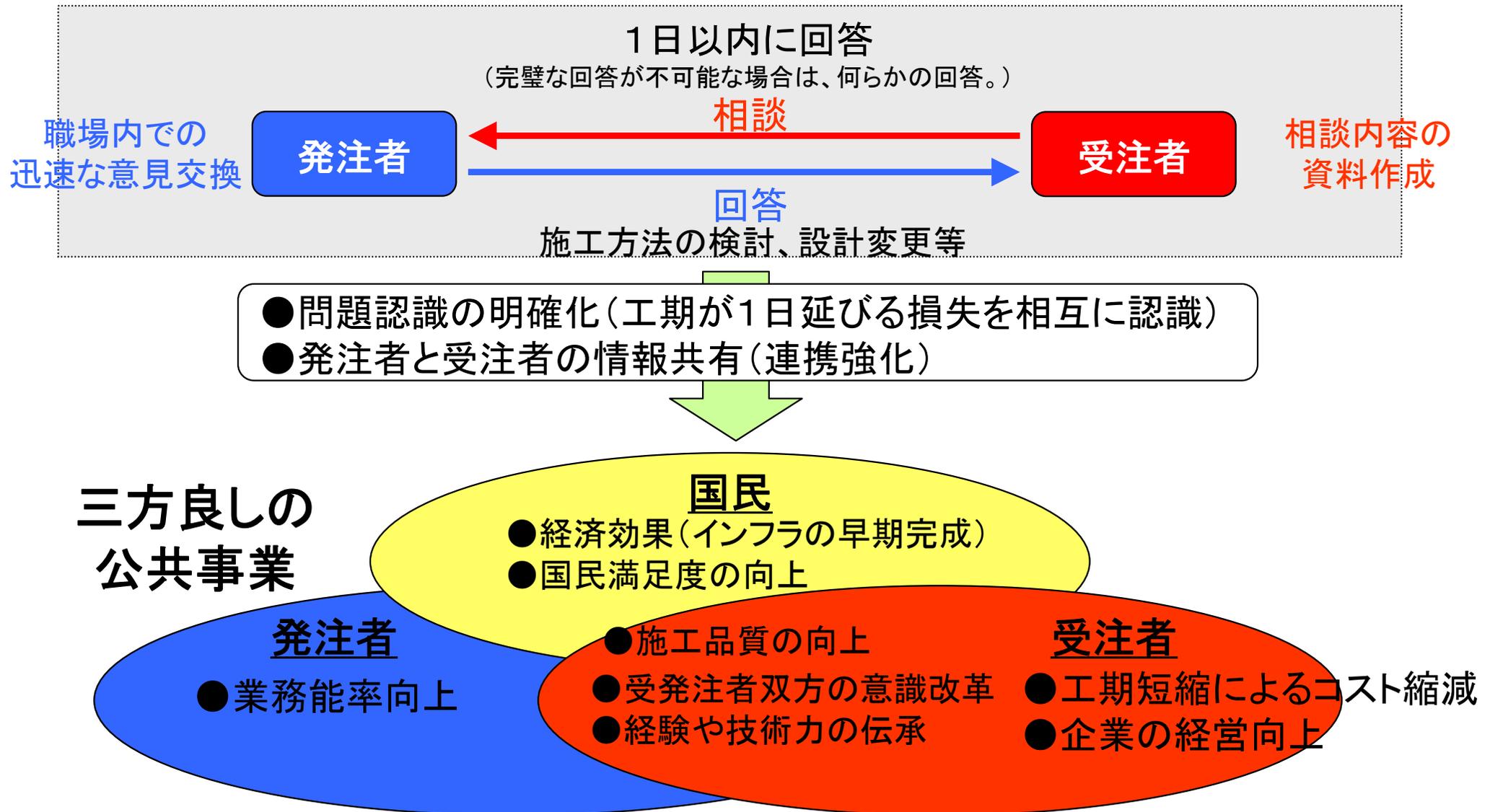
→ 重大な瑕疵の回避、インハウスエンジニアの技術力向上

- 回避すべき手法論の形式化・固定化

→ 時期、回数、内容などは工事の性格ごとに工夫

- 設計業務成果の品質向上策とのセットが必要

ワンデーレスポンス(円滑な意思疎通①)



- 【平成18年度】 北海道で15件の試行工事を実施
- 【平成19年度】 全国の直轄工事で約2,500件以上で実施、フォローアップ
- 【平成20年度】 フォローアップ結果を踏まえさらに対象工事を拡大(約4,000件程度)
- 【平成21年度】 全直轄工事で実施予定

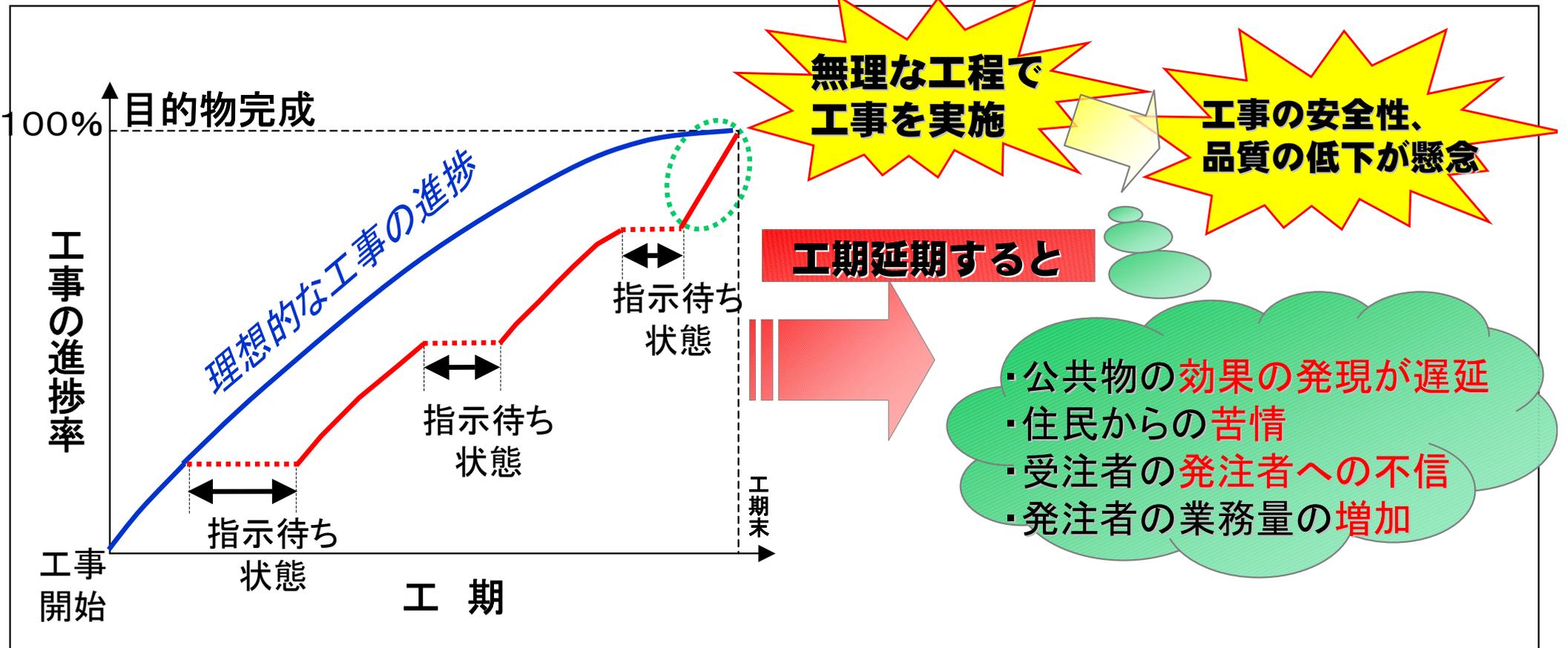
ワンデーレスポンスの実施目的

現状

発注者の意志決定
に時間がかかり過ぎる

実質工期が短くなる

品質の確保
安全の確保に懸念



ワンデーレスポンスの実施により「指示待ち状態」を短縮・解消し、適正な工期の確保を図る

ワンデーレスポンスに期待される効果

一日以内に回答

当初の工期内に無理なく完成

発注者

- ・ 品質の確保
- ・ 安全の確保
- ・ 早期供用
- ・ 事業効果の早期発現



住民

- ・ 工事目的物の早期利用
- ・ 周辺の工事影響が軽減



受注者

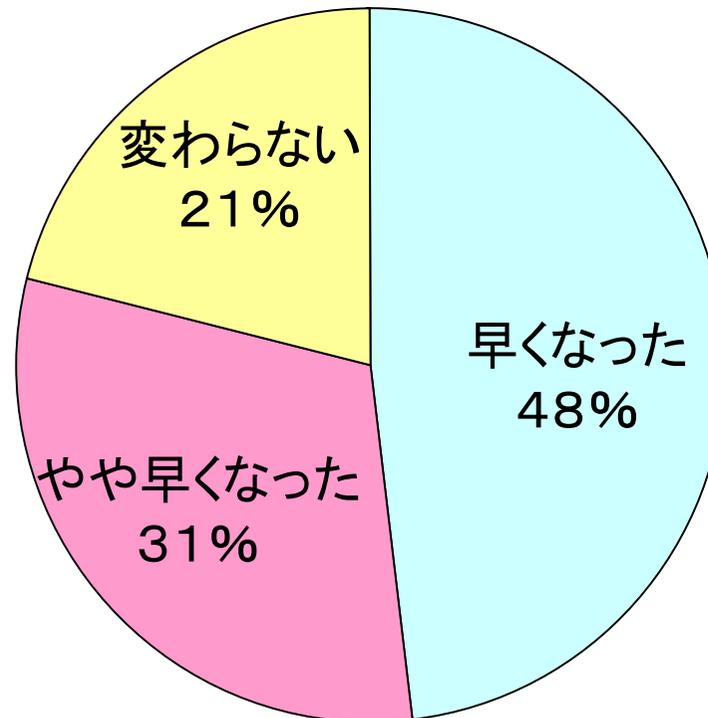
- ・ 品質の確保
- ・ 安全の確保
- ・ 効率的な現場施工の実現
- ・ 現場トラブル拡大の防止



フォローアップ調査結果

■ 回答のスピード

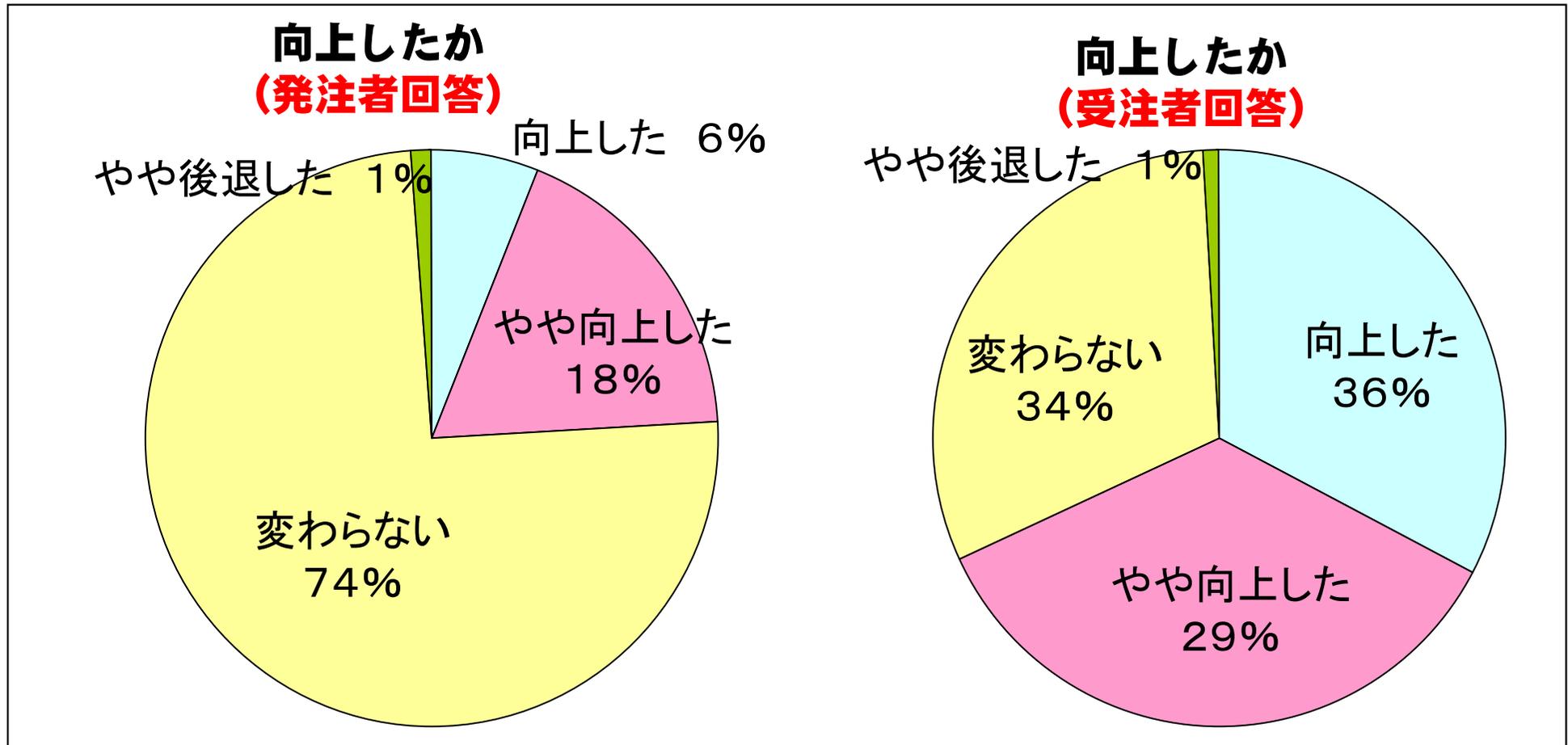
回答は早くなったか
(受注者回答)



- ・従前より早くなっていることは明白
- ・少数の「変わらない」の原因をフォローする必要

フォローアップ調査結果

■ 受発注者間のコミュニケーション

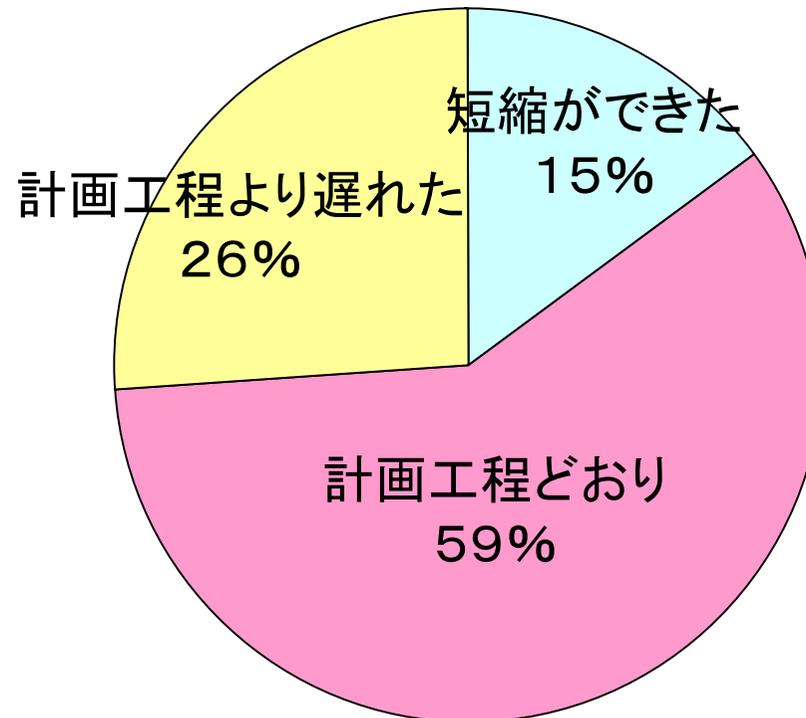


- ・発注者と受注者の間には、やや“温度差”
 - 発注者側の「ワンデー」の負担感
 - 試行開始直後の“戸惑い”も考慮する必要

フォローアップ調査結果

■ 計画工程と実作業工程の比較

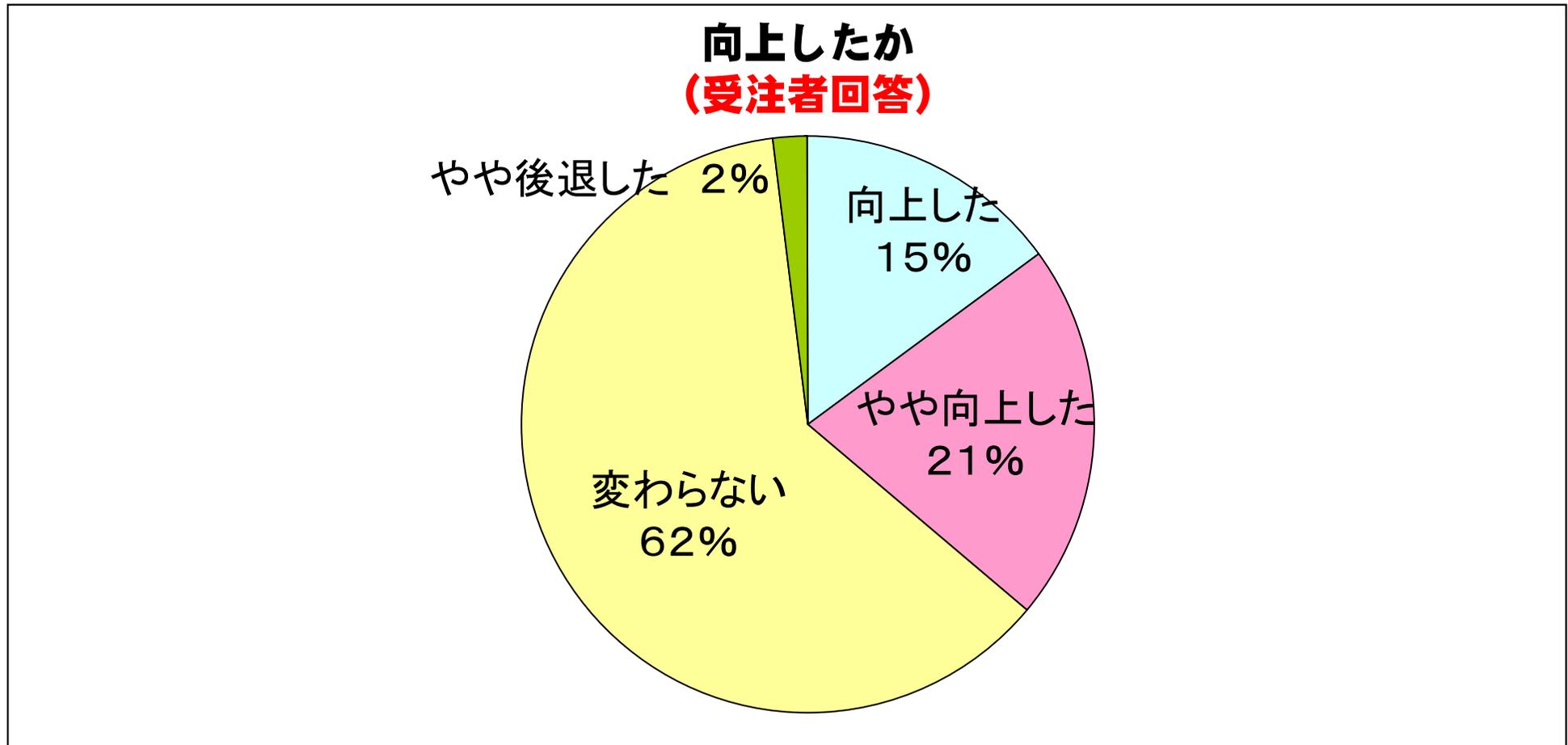
行程の比較はどうだったか
(受注者回答)



- ・「短縮」+「計画工程どおり」が大半
- ・このことを高く評価すべきではないか(そもそもの目的)
- ・「遅れ」の部分の要因も分析すべき
(コミュニケーション以外の要素もあるはず)

フォローアップ調査結果

■ 職場内のコミュニケーション向上



- ・発注者における意思疎通の円滑化にも効果
- ・ただし、ワンデーレスポンスのみが解決策ではない性格の事項

■ 総括的な評価

・ 工程管理の適正化には大きな効果

→ 結果的に、品質の向上、事故の減少、利益率の向上に

・ 発注者と受注者の“温度差”の改善が課題

→ 「ワンデー＝24時間」だけが目的化されている誤解

→ 「適切な工程管理」のための行動原理との理解が不足

→ 本来の目的を考える意識徹底

設計変更審査会（円滑な意思疎通②）

【目的】設計変更手続きの透明性と効率化。

【対象】基本的に全ての工事が対象。

【取組状況】

- ・平成17年度より関東地方整備局において試行。
- ・平成20年度中に、全ての整備局等で設置。

設計変更審査会

発注者

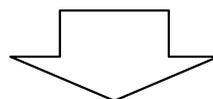
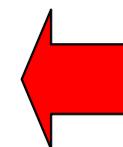
- ・（技）副所長
- ・工務課長
- ・主任監督員
等



- ・設計変更の妥当性の審議
（設計変更がトランの活用）
- ・設計変更手続きに伴う工事
中止の判断等

施工者

- ・現場代理人
- ・監理技術者
等



設計変更、先行施工承認に反映

土木工事設計変更ガイドライン（ルールの明確化①）

■ 作成の背景

- 各発注担当者等が設計変更の課題と留意点について十分理解することが必要。
（設計変更に係る諸問題）
- 条件明示が不十分、一式計上の事項、設計図書、設計変更範囲が不明確等、
受発注者間に認識の相違有り

■ 掲載内容

■ 設計変更が可能なケース

- ・予期しえなかった土質条件や地下水位等が現地で確認された場合
- ・請負者の責によらず、工事着手出来ない場合
- ・「設計図書の照査」の範囲を超える作業を実施する場合

等

■ 設計変更が不可能なケース

- ・請負者が独自に判断して施工を実施した場合
- ・協議の回答がない時点で施工を実施した場合

等

■ その他

変更手続きフロー、設計変更の考え方 等

土木工事 設計変更ガイドライン (案)

平成20年4月

北陸地方建設事業推進協議会
工事施工対策部会

工事一時中止に係るガイドライン（ルールの明確化②）

■ 作成の背景

- ・ 一部の工事で協議等が未了な場合でもやむを得ず条件明示を行い発注
- ・ 工事の一時中止の指示を行っていない工事が見受けられ、受注者の現場管理費等の増加や配置技術者の専任への支障が生じているという意見
- ・ 一時中止に係るルールを明確にすることにより、適正な対応を促進

■ 掲載内容

■ 工事中止に係る基本的な流れ（基本フロー）

■ 発注者の中止指示の義務

請負者の責に帰することができない事由により工事を施工できないと認められる場合

■ 中止の指示・通知

中止の対象となる工事内容、工事区域、中止の見通し等の中止内容を請負者に通知。

■ 工事現場管理に関する基本計画書の作成

■ 請負代金額又は工期の変更

■ 増加費用の考え方

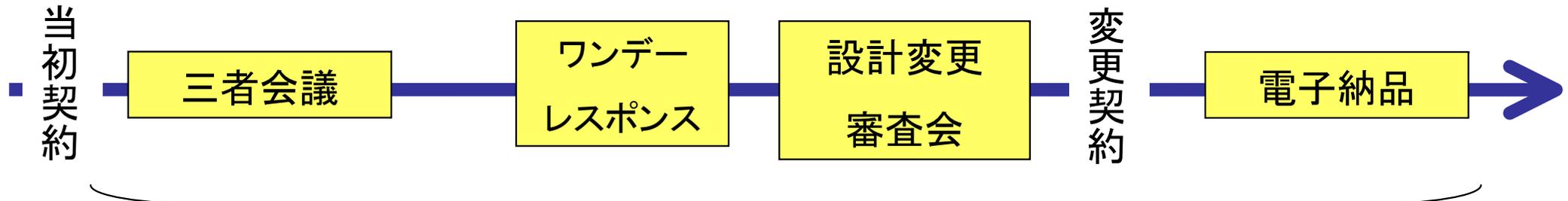
工事一時中止に係るガイドライン （案）

平成20年5月

北陸地方建設事業推進協議会
工事施工対策部会

公共工事総合プロセス支援システム（案）

発注者と受注者のコミュニケーション向上施策を
建設業の生産性効率化につなげるための総合的な取組



トータルプロセスを情報共有システム（建設系ASP※）で効率的に実施

スケジュールの共有

掲示板（協議内容の共有）

ファイルの一括管理

工事書類の作成・提出・検索・閲覧

ワークフロー（決裁迅速化、明確化）

電子納品データの作成支援

- ・工事書類のやりとりの効率化
- ・意思決定過程の明確化
- ・電子納品の編集の円滑化
- ・新しい現場関係の再構築

※ アプリケーション・サービス・プロバイダ

公共工事の施工中における、スケジュールや工事書類管理共有機能、決裁機能（ワークフロー）、電子納品データの作成支援機能を備えたアプリケーションソフトをインターネットを通じて公共工事の受発注者にレンタルする事業者。

重要なことは「意識改革」

【何が根底にあるのか？】

- 慣習的な「発注者優位」の潜在的意識
- 「指導力」と「片務性」の勘違い

【どうすれば、意識改革は可能か？】

- 精神論だけでは意識改革は困難
- 意識改革を促すツールは有効

【ただし…！】

- ツール活用自体が目的化してしまう危惧
- ツール活用の真の目的を明確化